

お父さんへの熱い思い

なかざわ しゅう
中澤 修

ぼくがありがとうを伝えたい人は、お父さんです。お父さんはかんごしで人の命を助ける仕事をしていると聞いたことがあります。でもぼくは、実さいに働いている所を見たことがありません。ふだんのお父さんは、ふざけたことが大好きで、おしりを出しておどったり、じょうだんばかり言っています。夜に仕事をするので、昼間ねています。だから、お父さんのイメージはねほすけです。そんなお父さんが本当に人を助けることができているのか不思議でした。でもある日、お父さんですごくいんだと思うできごとが起りました。

家族で出かけるため車に乗っていると、道ばたに血を流したおばあさんがたおれているのを発見しました。お父さんは、すぐに車をとめかけつけて行きました。タオルで頭をおさえ、通る人たちに、

「すみません。救急車をよんで下さい。」

「安全な所にいどうしましょう。」

と指じをだしていました。おばあさんには

「大丈夫ですか？ お名前言えますか？」

とよびかけていました。お父さんは、救急車がくるまでおばあさんのそばで、声かけをしていました。それは、おばあさんが不安にならないためだと思いました。お父さんは今まで見たことがない真けんな顔で、助けたいという気持ち伝わってきました。ぼくは車の中で何もすることができずくやしかったです。

「おばあさんが助かりますように。」

と心のそこから祈っていました。救急車がきて、おばあさんが病院に行くのを見おくと、お父さんが車に戻ってきました。ぼくが、

「おばあさん、大丈夫。」

ときくと

「出血は多かつたけど、意識はあったから大丈夫だと思うよ。」

と言っていました。

「お父さん、格好よかつたよ。」

と言うと、ニコニコ笑顔で、照れているように見えました。その日のお父さんは、本当に格好よくてぼくの自まんです。ぼくも人を助けられる人になりたいという気持ちがわいてきました。

お父さんいつも、ぼくたちのためにねないでお仕事をしてくれてありがとう。つかれているのに遊んでくれてありがとう。一つだけお願いがあります。

「いつまでも健康でいてください。」

真けんな顔のお父さんも格好よかつたけど、やっぱりぼくは、ふだんのねほすけで、おふざけ好きなお父さんのことが大好きです。